「かえりみちの木」

中村ケンシ

<登場人物>
・井上歩(２９才。ツーリングが趣味。)
・上田隆(５２才。大ケヤキ資料館の管理人。木の世話をしている。)
・金谷靖子(３６才。保護動物施設アミティエに勤めている。)
・中西郁真(４０才。転職し、妻と天然酵母のパン屋を始めた。)
・中西美里(２７才。郁真の妻。)
・平野徹(４０才。郁真の同級生。)
・白井耕輔(３８才。統合失調症。社会福祉法人「あおばずくの里」に入所している。)
・山本涼子(５５才。ソーシャルワーカー。社会福祉法人「あおばずくの里」に勤めている。)
・井上文(２４才。無職。)

山間の村。
都会から車で小一時間ほど走ればその村に着く。
田畑が広がり、草はら、小川、ため池、古民家などが調和して美しい景観を作っている。以前は過疎が進んだこともあったが、現在は、昨今の里山ブームで休日は訪れる人が絶えない。村の外れの国道沿いの道の駅では採れたての野菜を求め、日曜日の朝から車が行列を作っている。自然に囲まれた癒しの空間を売りにしたカフェ、天然酵母のパン屋なども人気である。

さて、村のほぼ中央に大樹は立っている。
その枝は空を覆うように両手を広げ、その太い幹の表面は苔むしており、大樹の悠久の時をにじませている。
幹のそばに立札。木を取り囲むようにベンチが数脚、これはやや新しい。訪れた人が座り、木を眺められるように配置されている。
左手奥に行くと「大ケヤキ資料館」に通じ、この大樹の歴史が展示してある。右手前は駐輪場、駐車場に続く。

ある年の冬の終わりから春の初めにかけて。

1、ある日の夜、雨

遠くで低く雷が鳴る。空から雨が黒い線となって落ちてくる。
レインスーツを着た女が一人、井上歩である。木を見つめている。
懐中電灯の灯。やがて、傘をさした中年の男が現れる。上田である。

上田　珍しくはありませんね
歩　え？

上田　樹齢千年のケヤキですわ。千年という時間を想像できますか。いろんなものが生まれては消えていきました。それを何度も繰り返しました。ここから見えるもんはみんなそうです

上田は傘を閉じる。

上田　ずっと見続けてきたんですねえ。ここで。飽きもせずに

歩　あの・・

上田は懐中電灯で木を照らした。

上田　直径３メートル、高さは、ざっと２５メートルあります

幹の表面を照らして。

上田　コケです。びっしり。上を

枝を照らす。

上田　ところどころ傷んでます。残念ですが

歩は枝を見る。

上田　宿り木ですわ。緑がボンボリのように。ほら、いくつも

歩　ヤドリギ？

上田　木に張り付いて養分を吸ってるんですわ。悪いやつですねえ。でも木を枯らすことはありません。そうなると共倒れですから

歩　あの

上田　外国では神聖な植物らしいですね。ほら、クリスマスのしゃれたやつあるでしょ、輪っか、あれ、なんて言いましたか

歩　リース

上田　それです。リース、リース、それに使われるそうですわ

歩　いきなりですよね

上田　は？

歩　何ですか？

上田　は？

歩　今の話

雨音。

上田　職業病ですわ
歩　え？
上田　どうもいけません。木を見ている人がいると、どうも、こう、ついつい話しかけて
　しまうみたいで・・
歩　えーっと
上田　いつもはあっちで

歩は上田の懐中電灯の灯の先を見る。

上田　資料館ですわ。大木の歴史を展示してます。歴史、言いましても、人が辿れる歴史
　はほんの５０年・・せいぜい１００年ですか？寄っていきますか？
歩　珍しくはないって言いましたよね。私に向かって。さっき
上田　ええ
歩　何が珍しくないんですか？
上田　こんな日に、ひとりで

雨が降っている。

上田　こっちは初めてですか
歩　以前に何度か
上田　そうですか
歩　ここから峠を越えて海へ出るのが、ツーリングコースになってて
上田　ええ。(駐車場にとめてあるオートバイを照らして)ああ
歩　私のバイクです。帰りもこの木が目印で、ここで、みんなで落ち合って、休憩して

遠くで雷が鳴る。

上田　大丈夫ですわ。神木ですから
歩　シンボク？
上田　さすが神の宿る木、雷のほうがよけますわ
歩　そうなんですか
上田　冗談です
歩　冗談？
上田　実は近くの建物に避雷針がありましてね
歩　でも、生きのびたんですよね？千年も
上田　はい？
歩　木です。この
上田　(嬉しそうに)はい
歩　奇跡ですね
上田　偶然ですわ

歩　偶然ってことはないでしょう。この辺、大昔は何もなかったんですよね、だって

歩は木を見る。そして、木に近寄る。

上田　あ、踏みました、そこ

歩　え？

上田は歩の足元を照らす。歩は自分のいた場所から飛びのく。

上田　少し盛り上がっているのが、わかりますか？

歩、地面を見る。

上田　根っこですねえ。ここまできてます。この下はびっしり根が張ってまして。触ってみてください

歩　え？

上田　少し前にパワースポットというんですかね、流行りました。雑誌に載ったり。どうぞ

歩、おそるおそる根を触る。

上田　どうですか？

歩　なんだか

上田　ええ

歩　あたたかい感じで

上田　はい

歩　何かが伝わってくるようです

上田　冗談です

歩　冗談？

上田　木にそんな力はありません

歩　え？

上田　昔、テレビの中継で人気の芸人さんが来ましてね。「木に触るとパワーがもらえるんじゃないか」って騒いで。私、こう見えても、木を守る立場ですから。こう言いました。「幹は駄目だー」って。根元を踏み荒らされると木が傷みますからねえ。ですから、思いついたのが、地面に出てしまった根っこです。「これならいい」と許可しました。幹から、ちょっと離れてますからね、それからは、訪れた人が根っこを触っていくんです。ありがたそうに触る人、ふざけ半分で触る人、触ってすぐに手を引っ込める人、ずーっと触って動かない人

歩　嘘なんですよね

上田　不思議なもんですわ

歩　何がですか？
上田　ただの根っこにお礼を言いにくる人がいるんですねえ。なんですかね、ご利益(りやく)があったんでしょうね
歩　詐欺です
上田　私は嘘は言いません。全部、話します
歩　全部？
上田　「これは神の木ではない」と。笑う人もいれば、「せっかく来たので記念に」なんて触っていく人も。怒る人もいました
歩　それで？
上田　そういうもんだと思うんです
歩　何がですか？
上田　さっき、あなたは何かを感じた
歩　いえ、それは、その
上田　きっかけです。力をもらったのではありません。力が湧いたんですわ。いいことがあったのは、その人自身のせいですわ
歩　・・・・
上田　もう一度、触りますか？

再度、根を照らす。

上田　遠慮せずに
歩　信じたからです
上田　は？
歩　思い込みです。救われた人の
上田　はあ
歩　恥ずかしいことを言います。いいですか？

上田は懐中電灯の灯りを消した。

上田　どうぞ
歩　神様はいません

また遠くで雷が鳴った。

歩　勝手に意味付けするんです。意味付けして、思い込んで、勝手に神様を作り出して、自分を騙して、それが信じるということです。だから、嘘です。私は・・

歩は、ここから見える景色を見つめる。

歩　山々、森、草はら、田畑、民家、道、ここから見える景色は、全て私が勝手にそう意

味付けして、名前をつけているだけなんです。私はあれを山だと思い込んでいます。あれを森だと思い込んでいます。あれを道だと思い込んでいます。思い込まないと、みんな消えてしまいそうになります

上田　それでいいんじゃないですか

歩　え？

上田　そう見えてしまうんですから。向こうからやってくるんですから、それはそれで

雨が、やや激しくなる。

上田　珍しくはありませんよ

歩　え？

上田　木をひとりで見に来る人は、意外と多いんですねえ

木の陰からカッパを着た男が現れる。

男　空

歩　え？

その男は白井である。歩は茫然とその男を見る。

白井　今日、北の山に「サルノセンダン」が向かいました

歩　サルノセンダン？

白井　「センダン」というのは船の群れです。わかりますか？艦隊。「サル」という言葉を使ったのは、霊長目のうち「ヒト」を除いたものの総称として使いました。生物学の観点から見れば「ヒト」もまた「サル」です。しかし、ここでは「ヒト」以外という意味で「サル」という言葉をあえて使いたい。ピンクさんと相談して決めました。ピンクさんは間違いないですから

雨音。

白井　名前を言ってください

歩　え？

白井　ピンクさんが気になるそうです。名前を言ってください

歩　私の？

白井　ピンクさんが気になるそうです

歩　ピンクさん？

白井　ボクの友達です。昔は喧嘩ばかりでした

歩　そうなんですか

白井　ピンクさんは今日も一緒です

歩　仲がいいんですね

白井　いやあ照れますなあ
歩　今日はひとりですか？
白井　ピンクさんはいつも一緒です

歩は白井の周辺を探す。

白井　見えませんか？それはしかたありません。お天気によって少しずつ姿を変えていきますから
歩　はあ
白井　大きくなったり小さくなったり。本日は最小です。声だけのときもあります
歩　はい
白井　ピンクさんはもちろんピンク色です。ああ、だんだんレッドになってきました。ピンクさんはせっかちです。怒るとレッドになるんです。早く名前を言ってくれませんか
歩　井上です
白井　いのうえ・・なんですか？
歩　井上歩
白井　井上歩さんにメッセージです。いよいよ「地球生物会議」が始まります。ともに戦いましょう
歩　(上田に)あの・・
白井　もちろん猿は味方です。敵も猿なんですが種類が違います。詳しく言いますか？
歩　けっこうです
白井　ゴリラ、チンパンジー、ボノボなんかは味方です。敵は主にアイアイ、ワオキツネザル、オオコビトキツネザル、などなど。かわいい顔をして油断なりません。オンナと同じです。強敵です
歩　宇宙人ですか？
白井　宇宙人？そんなものいませんよ。信じているとは
歩　えっと、ですね
上田　(歩に)ちょっと、こちらへ
歩　え？

歩は白井から離れる。

上田　おまかせしていいですか
歩　何をですか？
上田　私、携帯、持ってなくて。いまどき珍しいですかね。なくても困りません、なんとかなるもんです
歩　あの、どうでもいいんですけど
上田　では、ちょっと

上田、懐中電灯の灯をつける。

歩　ちょっと待ってください
上田　白井君は大丈夫です
歩　は？
上田　ああ、白井君です。施設の
歩　シセツ？
上田　白井君、いくつ？
白井　３８。もうおっさんだよ
上田　避雷針のある建物が施設ですわ。白井君はそこで暮らしています
白井　上田さん、個人情報―
上田　だって、白井君、自己紹介、まだでしょう
白井　ああ、そうでした
上田　お父さんは？やっぱり町に帰ったの？
白井　父は子離れをしなくてはなりません
上田　よく納得したねえ、お父さん
白井　ボクにはピンクさんがいますし、山本さんも。山本さんはときどきボクにいやなこ
　とを言いますけど
上田　言われるうちが花だよ
白井　わかってます
上田　山本さんは知ってるの？
白井　抜け出してきましたから
上田　大胆だねえ。みんな、心配してるよ
白井　自立です。ボクはいい歳をしたおっさんですから
上田　いい歳をしたおっさんがさぼっていいの？

遠くで雷鳴。

上田　(歩に)あとお願いしますね
歩　え、無理です

上田、傘をさし、懐中電灯で行く先を照らしながら、資料館の方へ去る。
雨音。しばらくして。

白井　病んでます
歩　え？
白井　病んでます、お察しの通り
歩　えっと
白井　本当に病気の人は自分が病気だと言わないという法則があります。ボクは自分が病
　気だということを知っています。知りました。知りましたからここにいるんです
歩　はい

白井　あっちの丘の、「あおばずくの里」という施設で暮らしています。アオバズクってわかりますか？
歩　わかりません
白井　渡り鳥のフクロウです。夏の初めにこの木にやってくるそうです。ボクは一昨年の夏に一度だけ見たことがあります。つがいでした。羽を広げていました。エンゼルポーズと言われているそうです。まさに褐色の天使でした。見たいですか？
歩　動物が好きなんですね。サルとかフクロウとか
白井　見るとハッピーになるようです。ボクの病名はトーゴーシッチョーショーです。これは医者から名前を付けられました。自分で決めた名前はトーボーシッソーショーです
歩　逃亡・・失踪症・・？

雨音。

歩　ダジャレですよね
白井　ボクは逃げます・・そして消えてしまうわけです・・
歩　病名を自分で決めていいんですか？
白井　「里」ではみんなそうしてます。医者はいまいち言い当てられないようです。個性です。ボクはそれに爆発依存症も併発しています
歩　なんでもいいんですけど
白井　はい
歩　ということはですね。行くんですね
白井　ええ
歩　逃げる
白井　お察しの通り
歩　えっと、困ります
白井　引き止めないでください。今、まさに「サルノセンダン」がぞくぞくと集まってきてますから
歩　(自分が病気だということを)さっき言ってましたよね。それ嘘だって、わかってますよね
白井　ボクは地球生物会議に出席しなければなりません
歩　嘘よ
白井　嘘という意味がよくわかりません
歩　思い込みです
白井　ボクは里でボクの研究をしています。研究は実験と考察です。ボクはボクの実験をして、ボクがボクのことを考えます。研究は山本さんがときどき手伝ってくれます。いつもピンクさんが見守ってくれています。ボクがおかしいということは研究の過程で知ることができました。でもボクには理由があります。その理由はボクだけのものです。ほかの人と違います。それでいいんだと思います。いろんな人がいろんな理由で暮らしていてもいいんだと思います。それがボクの研究の途中経過の発表です
歩　ピンクさんってどこにいるのよ

白井は悲しい顔をする。

白井　あなたには見えないんですね。知ってました
歩　やっぱり思い込みです
白井　ボクはピンクさんのことが大好きです・・・だから、治りたくありません

雨音。

白井　トゥービーコンティニュー

白井は雨の中、走り去る。溶暗。

2、ある日の昼下がり、晴れ

ベンチに男が二人、中西郁真と平野徹。少し離れて、郁真の妻の美里がいる。

郁真　「革命は辺境で起きる」。これ言うたん誰か知ってるか？
徹　知らんわ
郁真　レーニンや
徹　ああ、レーニン
郁真　レーニンの師匠がマルクスさんや。わかるな？
徹　知ってる知ってる
郁真　マルクスさんは俺の師匠や
徹　そいつにパン作り、教えてもろたんか？
郁真　マルクスさんがパンを作っとったかは知らん。一個くらい作ったかもしらんけど
徹　村のマルクスさんとかそういう人ちゃうの
郁真　誰や？それ
徹　まあええわ。ほんで？
郁真　「天然酵母のパン」は革命や
徹　え？
郁真　俺の修業時代。俺が初めて働いたパン屋。郊外のとある住宅地の真ん中にそれはあった
徹　ちょう待って。今から語んの？
郁真　大事なことは何度も繰り返す
徹　手短に頼むで
郁真　労働時間は夜中の二時から夕方の五時まで。休憩がない。食事もない。立ちっぱなし。トイレに行く時間もない
徹　ようがんばった、ようがんばった

郁真　あの頃、俺はネジやった
徹　ネジ？
郁真　人間扱いされてへんかったってこと
徹　微妙な例えやな
郁真　何？
徹　それ言うんやったら歯車やろ
郁真　俺らの世代はネジやろ
徹　美里さーん、わかります？これ。「銀河鉄道９９９」の引用

美里はやや離れて木を見ていた。

美里　「銀河鉄道９９９」って何？
徹　昔、めちゃくちゃ流行ったアニメですわ。主人公、星野鉄郎が機械の体を手に入れるために銀河鉄道に飛び乗るんですわ。ほんで終着駅の星に着くんやけど、そこで騙されて「ネジ」にされかけるっていうねえ。それの引用ですわ
郁真　お前、全１１３話を一瞬で
徹　女子はノートにメーテルの目ばっかり書きまくっててね
美里　「メーテル」って何？
徹　ああ、えーっと鉄郎と一緒に旅をする謎の美女の名前がメーテルですわ
美里　知らない
徹　世代ちゃうもんね。時は西暦２２２１年。機械の体を持った富裕層に支配されている未来都市。第１話で、貧困層の鉄郎は必死でためたお金で買った銀河鉄道のパスポートを持って、母親と一緒に都会の駅に向かうんですわ。終着駅の星で、無料（ただ）で機械の体をもらえるって話を聞いたからね。ほんで途中で機械人たちの人間狩りに遭遇して、母親は殺されるんです。泣けました。それから、一人、鉄郎は逃げて、謎の美女メーテルに助けられるんですわ
郁真　徹、お前、何しに来たんや
徹　何？何？
郁真　鉄郎の話はもうええねん
徹　なんで？なんで？
郁真　美里はなにも知らんから。それでええねん

下手から、山本が現れる。それを追いかけて、上田。

上田　「里」の見学をしたいらしくてね
山本　里を？
上田　しばらく白井君と二人で話してたみたいですが
山本　見学者は受け入れてます。パソコンでもスマホでも、うちのホームページを開けていただいたら、見学申し込み書がダウンロードできますんで
上田　その辺がどうもついていけなくて

山本　その方の連絡先わかりますか？
上田　たぶんわかりますわ。ちょっと
山本　はい

上田、資料館のほうへ去る。

山本　こんにちは
郁真　こんにちは
山本　中西さんとこのパンはホントおいしいから。来月のひなまつり会も、よろしくお願いしますね。ファックス届いてるかしら。先週、送りましたよね
郁真　届いてます
山本　イチジクパン、絶品、みんなに大人気
郁真　改良に改良を重ねた自信作です

山本は美里に。

山本　美里ちゃん、ありがと
美里　何？
山本　木の実とか・・どんぐり
美里　はい
山本　みんな喜んでる。マスコット作りが軌道にのって
美里　山に落ちてる
山本　いやあ、今の季節はなかなか
美里　山のものは山にあるから
山本　うん。また遊びに来て

山本は徹を見る。

山本　えーっと
郁真　僕の同級生です
徹　はじめまして
山本　はじめまして
郁真　世知辛い世の中、離婚して、リストラにあって、今は無職なんですわ
徹　いきなり、重たい重たい
郁真　それでね、店も忙しなってきたから、ええ機会やし、ちょっと手伝ってもらおかなと思って、今、相談してまして
山本　ええ
徹　まだ決めてないんですけどね
郁真　山本さん、こっち来て何年になります？
山本　十年ですね

郁真　ここ、いいとこですよね、最高ですよね
山本　そうねえ
郁真　ほら
徹　いや、せやから、まだ決めてへんって
美里　服を着てる
山本　え？服？

美里の指した枝には新しいシートが巻いてある。山本はシートに気付いて。

山本　ああ、ブルーシート？先週、服部先生が
美里　服部先生
山本　美里ちゃん、会ったことなかったかな？樹木医（じゅもくい）の先生
徹　樹木医ってなんですか？
山本　木の医者です。この木は古いから、定期的に診てくれてて
徹　(上方を見て)そういえば、あちこちにありますね
山本　いろんなところ、手当しないといけないみたいですね
徹　虫よけですか？病気ですか？
山本　それもありますけど、新しい根を促してるって
徹　ねをうながす？
山本　若い根っこですね。根が出てくるように、暗くして、促してるんです
徹　あんなとこから？
山本　枝から若い根が生えると、この先、木は百年持つらしいですね
徹　すごいですねえ
山本　シートをめくるのは5年後らしいんですけど
徹　5年ですか！時間、かかりますねえ
山本　結果がわかるのはそれぐらいですね
徹　それだけ待って、出てこなかったらどうするんですか？
美里　聞こえない
郁真　美里
美里　音がしない
上田　ありましたありました。これですわ

上田がやってきた。

上田　めーるあどれすっていうんですねえ。英語ですか？これ

上田は山本に紙切れを渡す。

山本　どうも
上田　白井君、帰ってきました？あの日

山本　朝方、ずぶ濡れで
上田　怒られました？
山本　ほめました
上田　あら
山本　見事な逃亡です。今年に入ってからのベストでした
上田　がんばってますね
山本　(紙切れを見て)この人、どんな様子でした
上田　ひとりでした。オートバイで
山本　連絡してみます
上田　はい
山本　では

山本は中西たちにも会釈をして、去る。

郁真　パンは売れとった。俺の給料は安かった。俺は搾取されとった
徹　え？
郁真　いまさらパン屋のおやじを悪くいうつもりはない。正当な取引の結果や。俺は自分の「労働力」を売って、その対価、つまり給料を得た。「労働力」は「商品」や。「商品」は買うた人がどう使おうと自由や。俺はそれをマルクスさんから教えてもろた
徹　マルクスと、どこで会うたん？
郁真　買うた「労働力」は買うたやつの自由や。せやから、どう使おうと勝手や。労働者は文句言われへん。これが資本主義や
美里　ここ

美里は別の枝を指さして。

上田　なんですか？
美里　ここから音がする

上田は美里に並ぶ。二人は枝を見上げている。

上田　私にはどうも
美里　聞こえる
上田　水を吸い上げる音なんですかね

じっと枝を見つめている美里を残して、上田は去る。

郁真　資本主義から脱却せえ
徹　天然酵母のパン屋は資本主義の外か？
郁真　そやで

徹　田舎の物価が安いいうても、少しは儲けなあかんやろ
郁真　儲けたらあかんねん
徹　食うていかなあかんやろ
郁真　パンの原料はできるだけこの土地の材料を使う。環境にも人間にも価値のあること
　や。時間をかけて天然酵母を起こして、丁寧にパンを作る。真っ当なパンに真っ当な値
　段をつけて、本物を求めている人にちゃんと届ける。そのために俺は技をみがく。ちゃ
　んと休んで、田舎で、俺は人間らしく暮らす。最低限の生活でええねん。ここでは空き
　家の古民家を破格で貸してくれた。野菜も都会の半額や。これは資本主義からの脱却や。
　革命や。わくわくせえへんか？
徹　ウリになるで
郁真　ウリ？
徹　今の演説、そのまま見事なキャッチコピーや。今、自然食ブームや。ビジネスチャン
　スとちゃうか
郁真　お前、今まで俺の話、聞いてたか？
徹　あんな、人間らしくってなんやねん
美里　郁真
郁真　何？
美里　もういいと思う

　やや間。

郁真　のど渇くわ
徹　え？
郁真　コーヒー買うてくるわ。徹は何飲むねん
徹　ジョージア・・エメラルドマウンテン・・なかったらなんでもええわ
郁真　美里は？
美里　飲まない
郁真　せやったな
徹　思想、曲げるんか
郁真　何？
徹　泥水やーっていうとったやろ、缶コーヒーのこと。いろんな薬品入ってるって
郁真　忸怩たる思いで、買うてくるわ

　郁真、駐車場の方へ消えた。

徹　飲みにくいわ

　徹、美里を見て。

徹　あいつ、変に真面目で、頭でっかちで、昔から現実からずれてて

美里　何？
徹　美里さんもついていくの大変でしょ？でもまあ、あれはあれであいつの長所やったりもするんですよ

美里、徹を見つめる。

徹　ごめんね。失礼なこと言うてる？
美里　徹
徹　え？
美里　徹
徹　えーっと、呼び捨てかあ、全然ウェルカムですよ。郁真とは腐れ縁というか、一応、親友みたいなもんやから、せやから、ぐっと距離縮めてもらってもね、別に
美里　徹は音がする

美里は徹を見ている。

徹　心臓の音ですか・・そんなわけないですよね？耳、ええんですか？
美里　郁真は音がない
徹　昔はあったんですか？
美里　昔？
徹　聞いていいですか？郁真とどこで知り合ったとか、急に結婚したってメールきたから、ほんで、パン屋、始めたって。これも急で

美里は答えない。

徹　最初のパン屋をやめて、しばらく岩手のほうに行ってたらしいんやけど、そのときですか？郁真と知り合ったん
美里　菌の音を聞くの
徹　きん？
美里　酵母、麹菌、乳酸菌
徹　はあ
美里　菌はどこにでもある。山、草はら、森
徹　はい
美里　菌は生きもの。気に入ったものだけ、発酵させる
徹　気に入ったもの？
美里　生命(いのち)が振動しているもの
徹　はあ
美里　菌は生命の音を聴く。喜びの音。菌は音が聴こえるものの発酵を進める。甘い匂い。香ばしい匂い
徹　パン作りのレクチャーがもう始まってるんですね

美里　菌は、音のないものを腐敗させる
徹　わかります。腐ってまうんですよね。それが難しいらしいですね。天然酵母のパン作りは
美里　郁真は腐敗してる
徹　え？
美里　徹
徹　何ですか？
美里　郁真と代わって
徹　「代わる」ってどういうことですか？
美里　徹は音がする
徹　パン屋を手伝うってことですよね。それやったら、まだ

美里は徹に近づき、手をのばす。徹はそれを避けて。

徹　えーっとね

リュックを背負った若い女が現れる。井上文である。
徹と目が合う。イヤホンをして、ベンチに座る。

徹　高いでしょ
美里　高い？
徹　天然酵母のパンってね、お金と気持ちに余裕のある人しか買われへんのですわ。庶民にはなかなか手が出ませんわ。僕ね、掃除の仕事をしてます。してました。最低賃金ですわ。夏の現場は大企業のビルの地下のゴミ捨て場の整理でした。窓がなくて、臭いがすごいから閉め切られて、上は電気代をけちって、クーラーもつけてくれへん。こもった強烈な臭い、みんな汗だくで。仕切りは僕が任されてたんやけど、一緒に働いてた人は、お年寄りと障害者で。おじいちゃんがかわいそうで。せやけど、この仕事しかないんですわ。真面目にがんばる人がおって、さぼる人がおって、体、悪して、急にぱたっと来なくなった人もおって。あるおじいちゃんの朝ご飯は２０円のパン一個と３０円の缶コーヒーですわ。売ってるんですね、訳ありで安いの。おたくのパンっていくらします？おじいちゃんの朝ご飯の５倍ですか？１０倍ですか？僕、あんまりやから上にかけあったんです。「せめてクーラーつけてくれ」って。「みんな倒れますから」って。どうなったと思います？切られました。僕が。クビになりました。郁真のいうてたこと、少しはわかります。搾取されてるんですわ。せやから、こっちのほうがお断りやって。ほんで、仕事辞めて。そのときに、久しぶりに郁真から、連絡がきたんですわ。ええやつです。僕のこと、たぶん知ってるんです
美里　わからない
徹　わからないですかね
美里　つまらない

郁真が帰ってくる。

郁真　泥水

郁真は徹にコーヒーを手渡す。
郁真は自分の手のコーヒーを見て、文を見る。文に近付き。

郁真　コーヒー飲む？
文　ええ？(イヤホンはしたまま)
郁真　コーヒー
文　なんですか？
郁真　コーヒー
文　(イヤホンをはずして)え？
郁真　コーヒーいる？
文　なんでですか？
郁真　なんでもええやん

文は移動する。

郁真　上田さんとハナシせなあかんなあ
美里　ハナシ？
郁真　うちのパン、資料館に置いてくれるらしいわ
美里　そう
郁真　店の宣伝になるし、観光客が手にとるやろ
美里　・・・・
郁真　いつ行ったん？
美里　何？
郁真　「アオバズクの里」やった？
美里　昨日

美里、立ち上がる。

郁真　帰るん？
美里　うん

美里、去る。

郁真　ここは最高やって、あれ、嘘や
徹　え？
郁真　悪臭がかなわんねん。それと騒音

徹　なんのこと？
郁　近くに捨て猫の施設があってな
徹　捨て猫？
郁真　街中(まちなか)やったら苦情がくる。せやから人里離れたとこにあるんやろ
徹　なるほどな
郁真　都会のしわ寄せが田舎にきとる。いろいろ変えていかなあかん

郁真、コーヒーを飲み干し、空き缶を木の根元に転がす。

郁真　行ってこな
徹　夢は実現したんちゃうんか
郁真　ゆめ？
徹　したいことしとるやろ
郁真　中学生か

郁真、去った。徹は空き缶を拾う。文はイヤホンをはずす。

文　地元の人ですか？
徹　え？
文　あ、これ(イヤホンを見せる)
徹　ああ
文　木にぴったりのＢＧＭ探してて
徹　あったん？
文　「ツァラトゥストラはかく語りき」
徹　ややこしそうやな
文　「２００１年宇宙の旅」って映画のオープニングでかかってた曲です。壮大で、ぴったりなんですよね
徹　それはそれはよかったねえ
文　キューブリック監督のインタビューを読んだんですけど、あの映画のテーマは「神の存在」って言ってました
徹　キューブリック？
文　あ、私、井上文って言います。無職です。フラフラしてます。だから今日みたいな平日でも暇なんです
徹　あ、僕も無職、奇遇やね
文　「全国パワースポット１００選」というサイトがあって、７２位です
徹　順位が微妙
文　日本全国で、ですよ
徹　ああ、そうねえ
文　バスで来たんです。バスは一日二便なんですよね。バス停で降りて、グーグルマップ立ち上げたんだけど必要なくて。すぐにわかったんです。大きいから。目じるしみたい

で

文、木に向かって腕を広げる。

徹　音、する？
文　なにかアツみたいなものを感じます
徹　直接、触んねんて
文　え？いいんですか？
徹　その辺に根っこ出とるやろ
文　根っこ？
徹　えーっと、そこ
文　(見つけて)あ、はい
徹　触って祈るねんて。地元の人が言うてたわ
文　こうですか(根を触る)
徹　せやな
文　仕事が見つかりますよーに。素敵な彼氏が現れますよーに。お金持ちになれますよーに。私と、私の大切な人たちがみんな幸せになれますよーに。世界が平和になりますよーに
徹　欲張りすぎやで

文は徹を見る。溶暗。

3、ある平日の夕方、曇り

木の周りに4人。金谷と白井と山本と歩である。

金谷　他にもあるんです
山本　ええ
金谷　バンのドアノブのところに、えーっと、・・・・が塗りたくられて
山本　何ですか？
金谷　えっと、その・・・
白井　ウンコだね
山本　え？
白井　ひどいなあ。動物？それとも人？
金谷　ワンちゃんたちでないのは確かです
歩　わかるんですか
金谷　毎日、嗅いでますから
白井　ひどいなあ
金谷　譲渡会があるんですね

歩　譲渡会って何ですか？
金谷　ワンちゃんや猫ちゃんたちの里親探しです。月に一度。その日が丁度それで。遅れそうになって。ドアノブの内側ですよ。悪質。信じられない
歩　どうしてそんなことするんですか？
金谷　(改めて、歩を見て)えっと
山本　先月からうちの見学に来てて
歩　井上です。金谷さんの施設がないと保健所行きです。保健所に連れていかれた動物たちがどうなるのか、私なりに知ってます
白井　殺処分。高濃度の二酸化炭素ガスで窒息死、焼却炉行き
山本　白井君
白井　仕組みはアウシュヴィッツと一緒だよ
金谷　それから
山本　まだあるんですか？
金谷　最近、落書きがひどくて
山本　落書き？
金谷　「臭い」「うるさい」「出て行け」って、入口の門に。消しても消しても次々と。現行犯で捕まえたいんですけど、アミティエは人手が足りないから
山本　役場に訴えました？
金谷　応対はしてくれるんですけど真剣には取り合ってもらえない感じがして
山本　そうなんだ
金谷　衛生には気を付けています。ワンちゃんたちにとって清潔な環境は大事ですから。夜、吠える子は確かにいるけど
白井　犬が吠えるのは当たり前だよ
金谷　アミティエに来る子がみんな健康だというわけではないです。捨てられて、彷徨って、傷だらけの子もいる。交通事故にあった子も。ほとんどの子がワケアリで
歩　そうなんですか
金谷　だから、ずっと居残る子はいます。年老いた子や、障害を持った子は、普通、もらってくれないから
歩　その子たちはどうなるんですか？
金谷　大切にしてる。虐待を受けてきたワンちゃんはストレスで夜通し吠えます。でも、体を撫でながら、「あなたは素晴らしいよ」って言い続けると、落ち着くんです
歩　そうなんですか
金谷　うちが終(つい)の住処(すみか)になったら駄目なんだけど、なかなか難しくて
山本　アミティエをはじめに創った人はイギリス人の女性ですよね。著書を読みました。理念が書いてありました。アニマルシェルターって呼ばれてるのよね？イギリスにそういう施設があって
歩　シェルター？
山本　避難所ね。シェルターを日本に、この村につくった。神の啓示があったなんて書いてあったんだけど。その女性は日本に帰化したそうですね
歩　金谷さん、アミティエってどういう意味ですか？

金谷　確かフランス語ね。友情っていう意味だったかな
歩　・・・どうしてかな
山本　何？
歩　失礼に聞こえたらごめんなさい。なぜその仕事を選んだんですか？
金谷　私？
歩　はい
金谷　そうねえ、たいした理由はないんだけど。前に子猫を飼ってたことがあって、ペットショップで買ったのね。お店で目があって、運命を感じてって、よくあるパターンで。3年で死んじゃって。それから、いろいろあって、いろいろあって、アミティエと出会って、いつのまにか働いてて
白井　ボブはげんきです。足が一本無くても、ぐいぐい好きな方へボクを引っ張っていく。かっこいい。散歩はへとへとです
金谷　言い過ぎよ。ボブはおじいちゃんだから
白井　そんなことはありません
金谷　ありがと、ボブ、散歩、嬉しそう
白井　いやあ照れますなあ
山本　こちらこそです。白井君の運動不足の解消になってるんですから(白井に)ね？
白井　金曜日は楽しみです
金谷　よろしくお願いします
白井　ボブはいつでも待っててくれます。友情です

資料館の方から中西郁真がやってくる。

郁真　ええ天気ですね
山本　こんにちは
郁真　こんにちは
金谷　こんにちは
郁真　こんにちは

歩は会釈。白井は無視。

郁真　いやあ、田舎はいいですね。平日の午後にのんびりできるなんてサイコーですわ。都会育ちの僕にとってはオアシスですわ
白井　ええ天気ですねー、ええ天気ですねー曇ってますけどー
山本　白井君
郁真　山の天気っていうんですよね
山本　山の天気ですか？
郁真　変わりやすい。天気予報を信用したらあかんってことですわ。今、曇っててもすぐに晴れ間が見えたり、急に雨が降ったり。冬は曇りの日が続いて
白井　へえーそうなんですかー

山本　中西さん、今日、美里ちゃんは？
郁真　ちょっと、体調崩しまして、家でじっとしてますわ
山本　風邪ですか？
郁真　そうそう

郁真はカバンを開けて、チラシを取り出す。

郁真　(配りながら)来月、中西パン二周年記念のパンフェアやるんですわ。全品２０円引きです。ポイントカードも５倍押し。よかったら、ぜひ。割引券、付いてますから

四人はチラシを受け取りながら。

山本　ここのパンを食べたら、他のパンをもう食べられないくらい
歩　そうなんですか
山本　おいしいのよね
郁真　ありがとうございます
金谷　中西さん
郁真　はい
金谷　定休日っていつですか
郁真　えーっと
金谷　金谷です。アミティエに勤めてます
郁真　アミティエ？
金谷　ふもとの、保護動物施設の
郁真　あー、僕、猫派ですよ。猫、かわいいですよね。癒されますね。店に何冊か、猫の写真集を置いてますわ
金谷　飼わないんですか？猫
郁真　飼うたことないですね。職業柄、食べ物を扱いますから
金谷　そうですか
郁真　月火水が休みです。週の前半です。店を開けなくても仕込みとか、いろいろ仕事はあるんですけど
金谷　え？
郁真　定休日の話ですよね？
山本　上田さんはいました？
郁真　寝ちゃってますね
山本　えー
郁真　僕が売場を整理してるときには、すでにうとうとしてましたね
山本　どうしようかな
金谷　どうしたんですか？
山本　いえね、資料館に納品に来たんですよ、今日は
白井　「ズクズク君」

山本　フクロウの置物です。「里」の工房の新作

白井はベンチに置いていたダンボール箱から「ズクズク君」をひとつ取り出す。

白井　バサッバサッ、ホッホーホッホー、エンゼルポーズ！出ました！エンゼルポーズ！出ました！

山本　羽のはばたく様子がね、難しくて、ちょっと実現できなかったんですけどね

白井　はい(金谷に手渡す)

金谷　かわいいですね

白井　設計はボクだよ

山本　材料は全部、山のものです。拾ってきたり、寄付してもらったり

金谷　なんて言いましたっけ？ズックズク？

白井　「ズクズク君」、ネーミングもボクだよ

山本　一応、「アオバズクの里」ですから

白井　あげます。ピンクさんも「そうしろ」と

金谷　でも売り物ですよね？

白井　いいからいいから

金谷　私、買います。おいくらですか？

白井　一万円。お友達価格

山本　白井君

白井　ただでいいです。幸せを、どうぞおひとつ

金谷　ありがとう

白井、嬉しそうに、ダンボール箱から「ズクズク君」をもうひとつ取り出す。

歩　白井さん、組み立て作業のとき、さぼってましたよね。寝てましたよね。突然、起きて歌を歌ってましたよね。踊ってましたよね

白井　バサッバサッ、ホッホー、出ました！エンゼルポーズ！出ました！

歩　材料集めのときもいませんでしたよね。いいんですか？他の人はみんな、一生懸命、作ってたじゃないですか

白井　さぼるのも仕事だホッホー

歩　そんなこと、聞いたことないです。まるで自分一人で作ったみたいに言ってるから

白井　「里」のルールだホッホー

歩　都合のいいルールですね

白井　ピンクさん、歩ちゃんはうるさいね。どう思われますか？え？ええ、そうですか

歩　何ですか？

郁真　では、僕はこれで

山本　いかがですか？おひとつ

郁真　けっこうですわ

郁真、去る。

歩　(山本に)あんなんでいいんですか？白井さん、今、ピンクさんを利用してましたよね
山本　みんな笑ってたでしょ
歩　え？
山本　白井君が急に歌いだして、踊って、それが変な踊りで。みんなそれを見て。場が和んだ
歩　ですけど
山本　え？上田さん、お昼寝中？
金谷　そうみたいですね
山本　困ったなあ
金谷　私も用事があってきたんですけど
山本　そうなんですか？
金谷　資料館に譲渡会のチラシを貼ってもらおうと思って
山本　里親さんがたくさん見つかるといいけど
金谷　月火水が多いんですよ。週の前半。新しい落書き

突然、白井はパン屋のチラシをビリビリに破り、地面に捨てる。

山本　白井君
白井　なんですか
山本　何それ
白井　なんですか
山本　すっきりしたの？
白井　えーっと
山本　そんなことしてどうなるの？何か変わる？気持ちよくなっただけだよね？
白井　ピンクさん、ピンクさん、応答願います
山本　それって落書きをした人と同じだよね
白井　ピンクさん、ピンクさん

ピンクさんの応答はない。

白井　上田さん、お昼寝なんてさぼりですよね。さぼりだー、さぼりだー

白井は紙片を拾い始める。見かねて歩は手伝う。歩は拾った紙片を白井に手渡す。

白井　たたき起こしてきてやります。ちくしょー、待ってろー、首を洗って待ってろー

白井、ダンボール箱を持って、資料館のほうへ走り去る。

歩　明らかに逃げましたよね
山本　白井君の特技だから
歩　自分のことをめちゃくちゃ高い棚に上げましたよね
山本　(金谷に)ごめんなさいね
金谷　ええ
山本　なんだかねえ
金谷　あの
山本　はい
金谷　私も同じ気持ちでした
山本　え
金谷　怒りをぶつけたいようなそんな
山本　そうですか
金谷　許すってことですか？

山本、金谷を見つめる。

金谷　私、お人好しじゃないんで
山本　ええ
金谷　犯人が誰か決まったわけじゃないですけど
山本　そうね
金谷　それから、「許す」って言葉は、私の中でおさまりの悪い感じがします。自分で言ったんですけど。もっと、なんていうか、対等です。対等に腹が立ちます
山本　悪戯した人に？
金谷　それもそうですけど、よくわからない苛立ちも
山本　それは・・
金谷　うまく回っていかないっていうか、その
山本　余裕がないからだと思うの
金谷　余裕ですか？
歩　そんなことされて余裕なんか持てませんよ
山本　悪戯した人もきっと余裕がなかったと考えてみて？
歩　だから、許すんですか？
山本　あきらめるんです
金谷　あきらめる？
歩　泣き寝入りってことですか？
山本　これは私の勝手な意見として聞いてください
金谷　はい
山本　周りに期待しちゃうから、期待がはずれたときに腹が立つ
金谷　え？
山本　一度、とことんあきらめるんです
歩　後ろ向きですね

山本　何が悪いの？
歩　何がって、それは
山本　後ろ向いててもいいじゃない。それで余裕が生まれるんだったら
歩　やっていいことと悪いことがあります。(金谷に)そうですよね
山本　そうね
歩　納得できません

沈黙。

山本　話がつながるかどうかわからないけど・・・
金谷　はい
山本　白井君の話をしてもいい？
歩　え？
山本　彼はね、３分しか仕事が続かないの
歩　ウルトラマンですか
山本　あら歩ちゃん、ウルトラマン、知ってるの？
歩　なんとなくですけど
山本　私はリアルタイム。テレビの前に正座して。毎週、観てた
歩　ええ
山本　家具調のテレビってわかる？ブラウン管。四本の脚が付いてて
歩　はい
山本　チャンネルを変えるときはつまみをガチャガチャ回すの。歩ちゃん、知らないよね
歩　それてます、話
山本　白井君、仕事を始めて３分経つと胸のランプがピコピコ点滅してしまうの。光線の出ないウルトラマンみたい。この十年間、ずっとそう。３分が、５分１０分には、ならない。そこが彼の尊敬できるところ
歩　それも褒めるんですか？
山本　彼は３分を超えようと必死でがんばった。私もそう。私たちの間には、ずっと苛立ちがあった。でもね、のたうちまわった末に、彼はあきらめた。「もういいや」って。その考えにたどり着くまでに、たくさんの時間が必要だった。それでね、私も同じ時にそう思った。「３分でいい。それでいこう」って。お互いがあきらめて、絶望して、割り切って、受け入れることができたときにね、その３分という短い時間がすごい可能性を持って見えてきたの。その３分が価値を持った。輝いた。３分を二人で「素敵な時間にしよう」って。それからは楽しくなった。もちろん、結果として３分を超えて、５分１０分になる人がいるかもしれない。それはそれでいいこと。でもね、徹底的に絶望することで希望にたどりつくことがあるってことを私は知った
歩　それてます、話
山本　私はね
歩　はい
山本　苦労話をしているわけじゃないの

歩　はい
山本　もっと冷静な話。逆を考えたの
歩　逆？
山本　「３分しかできない」ではなくて、「３分もできる」
歩　・・・・
山本　時間に急き立てられていた私は余裕がなくて。苦しかった。でも、３分が「短い」と思い込んでいたのは私自身だった。自分で自分を追い詰めた。白井君を追い詰めた。
それに気づいた
歩　どうつながるんですか？
山本　何？
歩　金谷さんの話と
山本　あきらめるってことはね
歩　はい
山本　一度、世界を受け入れるってことなの。それがどんな世界であっても
歩　無理ですよ、そんなの
山本　それからね、私、今、「世界」って大げさな言葉を使ったけど
歩　はい
山本　その言葉の中にはね、いつも自分自身が含まれてる
歩　どういうことですか？

山本、金谷を気にして。

山本　ごめんなさい、変な話ね
金谷　いえ
歩　ひどい嫌がらせがあったのは事実です。(金谷に)そうですよね？
金谷　ええ
歩　余裕がないからって、他人を嫌な気持ちにしてもいいんですか？
山本　だめね、それは・・だめよ

山本は腕時計を見る。

歩　どうして時計見るんですか
山本　え？
歩　今、見ましたよね。まだ終わりじゃないですよね。続けてください、お話。
山本　そろそろ里に戻らないと。１７時からグループミーティングがある。
歩　・・・・
山本　歩ちゃんはどうする？
歩　今日は帰ります

山本は金谷に向き直り。

山本　来週、役場に用事があるんです。今日の話、もう一回、言ってみますね
金谷　ありがとうございます
歩　あの
山本　何？
歩　白井さんは・・
山本　納品は彼に任せてるから

山本、去る。

歩　からみました
金谷　うん
歩　見学させてもらってる立場なのに
金谷　面白かった。山本さんの話
歩　え？
金谷　飲もう
歩　は？

金谷、かばんから缶ビールを取り出し、歩にビールを差し出して。

金谷　ビールでいい？
歩　私
金谷　何？
歩　バイクですから
金谷　あら、残念
歩　いや、でも・・
金谷　何？
歩　呑みます、私
金谷　はい(ビールを渡す)
歩　どうも

フタを開けて、小さく乾杯する。二人、ビールを飲む。

金谷　晴れてきたね
歩　ホントにオレンジ色になるんですね
金谷　初めて？
歩　前に一度
金谷　うん
歩　観たような気がします。誰かと

金谷は夕陽を見ている。

金谷　「みかん」っていうの。私の飼ってた猫ちゃん
歩　「みかん」？
金谷　背中の模様がね、夕陽みたいなオレンジ色で
歩　ステキな名前です
金谷　「みかん」はね、スコティッシュフォールドっていう種類だったの
歩　知ってます。人気の猫
金谷　顔がポッチャリしてて、耳が垂れてて、とってもかわいくて
歩　はい
金谷　見る？
歩　あるんですか？

金谷、スマホを取り出す。

金谷　えーっと・・・はい

金谷、画面を操作してから、スマホを歩に渡す。歩はスマホの画面を見て。

金谷　お昼寝中―
歩　へえー
金谷　(画面を操作して)チュール、おねだり中―
歩　かわいいー
金谷　私ね、「みかん」がいなくなってから調べたの。猫のこと。知らないことがいっぱいあった。いろいろわかった。スコティッシュフォールドはね、種類じゃないの。病気
歩　病気？
金谷　「遺伝性骨形成異常」って難しい名前の。垂れた耳は骨の奇形が理由。奇形は足にもあって、進行性で、スコちゃんは大人しい猫って言われているけど、それは激痛に耐えているからだっていう獣医さんもいるんだって
歩　だから、飼いやすいって
金谷　スコちゃんは人気があるから人間は病気を治さない。そのまま。ちゃんとした病気の子が立派なスコちゃんなの。ずっと続く痛み。「みかん」はね、痛いって言わなかった。言ってたかもしれないし。私がわからなかっただけかもしれないし
歩　金谷さんのせいじゃないです
金谷　ひどいよね、人間って
歩　はい

歩は金谷にスマホを返す。

歩　金谷さんは結婚してるんですか

金谷　え?なんで？
歩　いえ、その
金谷　(左手を見せて)子供はいないけど
歩　そうなんですか
金谷　別居してる
歩　ごめんなさい。初対面なのに
金谷　仲が悪いわけじゃないの。私のわがままでこっちに来たから。夫は仕事が忙しくて。ここから職場に通うって無理だったし。私も
歩　はい
金谷　どうしてここに来たのかわからないんだけど
歩　神の啓示ですか？
金谷　神の啓示？
歩　アミティエさんを作った人はそうらしいって
金谷　神様なんているの
歩　いないと思います

やや間。

金谷　私ね、それから、必死で調べたの。猫のこと、犬のこと。でね、「動物愛護センター」が隣の市にあって、その施設に見学を申し込んだ
歩　動物愛護センターですか？
金谷　施設の人は嫌がって。だから雑誌の記者だって嘘ついて。なんであんなことしたんだろう
歩　どういうところなんですか？
金谷　行き場のない猫ちゃんやワンちゃんが集められる場所
歩　・・・・
金谷　ターミナルの駅からバスで２０分ほど行ったところに建物があった。普段だったら見過ごすような、ホントになんでもないところ
歩　はい
金谷　建物の向かいは墓地だった。たくさんお墓があって、木が赤や黄色に色づき始めてたから、秋の初めだったと思う
歩　はい
金谷　作業服姿の職員さんに言われて、白い長靴に履き替えて、建物の中に入ったの。床は打ちっ放しのコンクリート、底冷えがして
歩　はい
金谷　五つに区切られた部屋に１０匹くらいずつ、ワンちゃんがいたの。それぞれの部屋の壁は動くようになってて、一番手前の部屋は前の日に連れてこられたワンちゃんたちで、その一つ奥が前の前に連れてこられたワンちゃん、一日ごとに壁が動いて、ワンちゃんたちは奥へ奥へと追いやられる仕組みになってて
歩　はい

金谷　その日、五番目の部屋には、１２匹の子がいたの。どの子も愛想がよくて、私が窓に近づくと、何匹か尻尾をふって寄ってきたの。お座りをして、じっと見ている柴犬もいた。後ろ足でたって、チンチンをする雑種も。そうしつけられてたんだと思う。狭い部屋なのにぐるぐる回っているビーグルちゃん。あのね、ほとんどの子がね、首輪やハーネスをしてるの。センターの職員さんが説明してくれた。「飼い主が迎えに来てくれたと思って、喜んで寄ってくる」って

歩　はい

金谷　次の部屋はもうないの

陽は傾いて。

金谷　一匹でも多くの動物を救いたくて今の仕事をしてるのかもしれないと思うときもあった。夫と離れても

歩　はい

金谷　正義感じゃないの

歩　罪の意識ですか？

金谷　え？

歩　すみません、あの、みかんちゃんのことが

金谷　みかんには悪いと思ってる。でも、私は精一杯だった。あれ以上、なにもできない。みかんは私たちの間で幸せそうだった。私にはそう見えた

歩　あの

金谷　何？

歩　言葉を探すんですけど、やっぱり

金谷　うん

歩　神様の啓示じゃないですか

金谷　昨日、報告会があった

歩　報告会？

金谷、木を見つめる。

金谷　去年の一年間で、犬が一万匹、猫が四万五千匹、処分されたって

歩　・・・・

金谷　私のやってることは焼け石に水

金谷、ビールを飲む。

金谷　井上さんの番

歩　え？

金谷　どうしてこの村？

歩は木を見上げて。

歩　やっぱり木ですね
金谷　木？
歩　私、ツーリングが好きで
金谷　うん
歩　昔、よくここに立ち寄りました。ここで休憩してから、海の方に出たり、帰りはここを目指して、大きいから、道しるべになって
金谷　道しるべ？
歩　はい
金谷　屋台、出そうかな
歩　屋台ですか？
金谷　この辺に
歩　はい
金谷　訪れた人に自家焙煎のコーヒーを売りさばく
歩　いいですね
金谷　アミティエも資金繰りが大変だから
歩　そうなんですか
金谷　美味しいコーヒー
歩　飲みたいです
金谷　売れるかな
歩　売れます

木は夕日に照らされている。溶暗。

4、ある日の夜、晴れ

歩と白井がいる。

歩　他の人はがんばってるじゃないですか
白井　あの人たちはしたいからしてるんです。里ではがんばりは禁止だよ
歩　ピンクさんはどう思います？今の発言

歩は誰もいない空間に話しかける。

白井　ピンクさんはお休み中です
歩　都合良すぎ
白井　しかたありません
歩　それで？参加してきたんですか？地球会議

白井　地球生物会議です
歩　どっちでもいいんですけど、議題は？
白井　議題
歩　会議ですよね
白井　世界平和
歩　漠然としてますよね
白井　スケールが大きいと言ってくれ
歩　会場はどこですか？
白井　山
歩　山のどこですか？
白井　夜の山を駆け抜けた。ボクには、ずっと星たちのコーラスが聴こえていた
歩　雨だったじゃないですか
白井　僕の頭上だけ晴れていた
歩　まあいいけど。それから？
白井　急にコーラスはやみ、星たちが、僕の頭の上に集まってきた。それは船の形だった。
　猿の船団の母船だ。船のお尻から、一筋の光のエレベーターが降りてきて、僕は
歩　船に吸い込まれた、と
白井　どうしてそれを？
歩　会議は始まったんですか？
白井　僕は気を失った
歩　ほら、ご都合主義
白井　気がつくと僕の部屋。体はびしょびしょ
歩　だから、雨だから
白井　・・・・
歩　肝心なところを端折ってますよね。物語はディティールが大切なんです
白井　会議は無意識レベル。僕たちに言葉はいらない
歩　ほら
白井　なんですか
歩　すぐに抽象的な話に逃げる
白井　共鳴の振動はボクの体に
歩　ピンクさん、どう思います？逃げてますよね？
白井　眠ってます
歩　起こしてよ
白井　無茶言わんでください
歩　ピンクさん、ピンクさん、ピンクさん
白井　あ
歩　え
白井　ピンクさん、起きました
歩　やった。ピンクさん、あのですね
白井　でも、ぼんやりしてます。低血圧だから

歩はしかたなく空を見上げる。

白井　どこ行ってたんですか？
歩　え？
白井　今日はいなかった
歩　アミティエさんでボランティア。金谷さんの手伝い
白井　暇ですな
歩　大きなお世話です
白井　ピンクさんが「退屈だった」と
歩　へー
白井　帰らないんですか
歩　帰ります
白井　帰らないんですね
歩　いつも立ち寄るんです
白井　そうですか
歩　白井さんは帰らないんですか
白井　今夜も山で定例会だよ
歩　そうでしたね
白井　会議の前にはここに来る決まり
歩　何から逃げてるんですか？
白井　そうですね
歩　はい

白井、ゆっくり考える。

白井　ピンクさんです
歩　え？
白井　ピンクさんは耳元で囁きます。「お前はクズだ」「お前はゴミだ」「死ね」
歩　ピンクさんが
白井　逃げても逃げてもピンクさんは追いかけてきます。ボクを殺そうとたくらんでます。ヤドリギってわかる？ボクはボクの研究を始めていましたから、ある日、ピンクさんはヤドリギみたいなもんだと気づきました。もしかしたら本体は殺さないのでは？と。ピンクさんは作戦を変えてきました。今度はボクに父を殺させようとしました
歩　お父さんを
白井　ボクはずっと父と二人でした。父は学校に行かなくていいって言った。父は働かなくていいって言った。父はなんにもしなくていいって言った・・・ピンクさんは、ボクにコーナンで包丁を買わせました・・包丁は机の引出しに入れました。ピンクさんはいつでもスキを伺っていました。ピンクがレッドになったらやばい。頭の中で暴れまわる。頭が痛い。首が痛い。肩が痛い。背中が痛い。這いつくばって動けない。必死で包丁を

取りにいきました。そのとき、ボクはバクハツしました。ボクはボクを止めるためにバクハツしました。壁に穴をあけました。椅子を壊しました。父の大切なパソコンをめちゃくちゃにしました。家に火をつけました。病院に連れてこられました。見張られました。だから病室をめちゃくちゃにしました。病院をたらいまわしにされました。最後に「里」に来ました

歩　えっと

白井　言葉にしてみました

歩　言葉に？

白井　ボクはボクの研究をしていますから

歩は黙っている。

白井　研究は山本さんをはじめ、里の人たちが手伝ってくれました

歩　グループミーティング

白井　仲間たちのおかげです。あ、この場合は言葉にするとホントのことが抜け落ちるパターンですな

歩　・・・・

白井　研究は進みました。バクハツはよくない。特にお金がかかる。では逃げようと

歩　だから逃げるの？バクハツしそうになるから

白井　逃げ遅れたからバクハツしたというのもあります。この前は同僚を殴ってしまった

歩　ピンクさんはどうなったの？

白井　ピンクさんは、まず「ピンクさん」と名前を付けた。ピンクさんに優しくした。ピンクさんのお話を聞いた。聞かないのではなく、聞いた。ピンクさんとお話ができるようになった

歩　今は？

白井　仲良しのときもあり、そうじゃないときもあり

歩　そうですか

白井　山本さんは言います。バクハツも、逃亡もボクの表現だって

歩　表現？

白井　あの人はいつもわけのわからないことを言う。バクハツや逃亡の中にボクがいるらしい

歩　はい

白井　研究の途中経過の発表です。もしかしたら、ピンクさんはボクかもしれない

駐車場に車のヘッドライト。

白井　僕は行きます

歩　・・・・

白井　井上歩さん

歩　なんですか

白井　話を聞いてくれてありがとう
歩　今はどっちなんですか？
白井　・・・・・
歩　ピンクさん？
白井　トゥービーコンティニュー

白井は吠え、走り去る。歩は木の裏に。
徹がやってくる。徹の後ろに、美里。徹はベンチに座る。美里は木を見ている。

徹　何時？明日
美里　陽が傾いたら
徹　国道沿いに路駐しとくわ
美里　国道沿い？
徹　ハザード、消しとくわ。あの辺、夜になったら闇が深いから

美里は木を見ている。

徹　高速、乗ったら、すぐに岡山や
美里　・・・・
徹　あっという間やで
美里　もうすぐ
徹　うん
美里　根が出てくる
徹　それでええから
美里　もうすぐはもっと先。ゆっくり。大事に。急がなくていいから。続いていくから。
　ずっと
徹　今日、郁真は？
美里　業者さんと

上田がやってくる。徹、上田に会釈。徹、歩に気付く。徹、美里を見て。

徹　美里

美里は黙っている。

徹　明日

徹、去る。歩、美里に近付いて。

歩　パン・・・美味しかったです

美里　え？
歩　アオバズクの里のひなまつり会で

美里は歩を見つめる。

歩　あの
美里　私が子供のころ
歩　え？
美里　空を見上げると、銀河鉄道が走ってた
歩　銀河鉄道？
美里　透き通った汽車。耳を澄ますと音が聞こえた
歩　・・・・・
美里　私にしか見えなかった、私にしか聞こえなかった
歩　あの、どうして私に？
美里　どうして？
歩　え？

車の走り去る音。

美里　ここだと思ってた
歩　・・・・・
美里　まだ、違うみたい

山本がやってくる。歩と美里に気づく。

山本　美里ちゃん
美里　お別れ
山本　え？
美里　村を出るから
山本　いつ？
美里　・・・・・
山本　引っ越し？
美里　・・・・・
山本　店を閉めるの？

美里、木を見上げる。上田は懐中電灯で枝を照らす。

上田　私にも聞こえますかねえ

美里、頷く。

山本　体に気をつけてね
美里　・・・
山本　さよなら
美里　さようなら

美里、去る。

歩　どうしたんですか？
山本　え？
歩　こんな時間に
山本　うん
歩　白井さんは山に
山本　知ってる
歩　また何か困ることをしたんですか？
山本　そうじゃないの
歩　なんですか？
山本　私もね
歩　はい
山本　たまに寄るの。理由がなくても

満天の星。溶暗。

5、ある日の朝、晴れ

木の根元に白井がうずくまっている。山本は白井と対峙している。
金谷、上田、歩が周りにいる。

山本　ピンクさんはどこ？
白井　そこにー、そこにー
山本　どこ？
白井　木の、木の
山本　木のそばにいるのね
白井　お前のせいだーお前のせいだーって
山本　お父さんは助かったんでしょ
白井　ボクは病院に行かなかった
山本　そうね
白井　怖かったから、怖かったから
山本　怖いのは当たり前、誰でもそう

白井　死ねって、ピンクさんが死ねって
山本　白井君、グループミーティングの練習を思い出すの
白井　グループミーティング？
山本　お父さんに会うことが、怖かったの
白井　父が、父が
山本　うん、何？
白井　死んでしまうと思ったから
山本　そう思ったのね
白井　ボクのせいでボクのせいで
山本　そうね、白井君のせいね
歩　あの
上田　大丈夫です
山本　白井君は病院に行かなかった
白井　ボクは病院にいかなかった
山本　自分で選んだ
白井　怖かったから、怖かったから
山本　それでいいのよ。行く必要なかった
白井　行きたかった、行きたかった
山本　でも行けなかった
白井　そう、そう
山本　弱かったの
白井　ボクは弱い
山本　ダメね
白井　ボクはダメ
山本　そうダメ
白井　ボクは、ボクは
歩　あの、山本さん
上田　大丈夫です
歩　でも
上田　大丈夫です
山本　あきらめるの
白井　え？え？
山本　あきらめて。手放すの。よくできる自分を、かっこいい自分を
白井　あきらめる、あきらめる
山本　認めるの
白井　認める、認める
山本　それでいいのよ
白井　え？え？
山本　白井君はそれでいい
白井　それでいい？

山本　逃げたっていいじゃない
白井　え？え？
山本　なんにもできなくてもいいじゃない
白井　え？え？え？
山本　あなたはいるだけでいい
白井　いる？だけ？
山本　あなたはあなたでいるだけでいいのよ
白井　え？え？
山本　お父さんも、きっとそう思ってる
白井　父が、父が・・・
山本　白井君、始めるからね
白井　始める？
山本　ピンクさんはどんな様子？
白井　ピンクさんは、ピンクさんは、包丁を持って、ボクの買った包丁、コーナンの包丁
山本　ピンクさんに話しかけて
白井　話しかける？
山本　練習でやった通り。お願いするの
白井　お願い、お願い
山本　そうお願い
白井　ピンクさん、今日はつらいです
山本　そう。そうよ
白井　ピンクさん、今日はつらいですから、ゆっくり休みたいです。ピンクさんもどうか帰ってください。お願いします、帰ってくれたら、ありがたいです
山本　その調子、その調子よ
白井　ピンクさん、明日来てください。明日は大丈夫です。ぼくはたぶん、少し大丈夫ですから。ピンクさん、帰ってください。ピンクさんもお疲れだと思います。お願いします。今日はどうか帰ってください。お願いします。お願いしますお願いします

静寂。

山本　どう？
白井　ダメです、ダメです、ダメです、ダメです
山本　ダメ？
白井　ピンクさんレッドです。ピンクがレッドです。怒ってます。怒ってます
山本　白井君、続けるの
白井　あーあー
山本　頑張って。続けて、話しかけて
白井　トゥービー、トゥービー・・
山本　白井君、白井君
白井　トゥービー・・コンティニュー

白井は、奇声をあげて、逃げていった。歩、追いかける。

山本　歩ちゃんいいから
歩　でも
山本　今日はいいから。今日はね、これで、終わり

山本、ベンチに座りこむ。

上田　半年ぶりですねえ。前回は病院で
金谷　病院ですか
上田　ベッドが二台、ひっくり返ってたそうですねえ
金谷　重いですよね
上田　あのときは確か、お父さんがお寿司を買ってこなかったからとかなんとか。それで、かんしゃくを起こしちゃって、あの重いベッドを
山本　上田さん、すいません、展示室がめちゃくちゃになって
上田　今回もけが人はいませんから
山本　ガラスも割れちゃって
上田　大丈夫です
山本　本当にすみません。(金谷に)ごめんね
金谷　いえいえ
上田　お茶を入れましょうかねえ
山本　あ、えっと、大丈夫です。ごめんなさい
金谷　あ、私、水

金谷、カバンから水のペットボトルを出す。

金谷　どうぞ

金谷、ペットボトルを山本に渡す。

山本　ありがとう

山本、水を飲む。

山本　里に連絡して何人か来てもらって、すぐに片付けますから
上田　大丈夫です
山本　お父さんがね、救急車で・・・
上田　はい

水をもう一口。

山本　机も椅子も派手にひっくり返しちゃって
上田　直せますから。机も椅子も
山本　あ、ガラス、あぶないから

山本、立ち上がる。

上田　休んでてください
山本　でも
上田　片付けてきますから

上田、資料館へ戻ろうとする。

金谷　上田さん
上田　はい
金谷　私も行きます
上田　はい
山本　すみません・・本当に
金谷　こんな時にあれなんですけど
山本　え？
金谷　昨日、役場の人が来てくれました。話を聞いてくれました
山本　良かった。いたずらがなくなるといいんだけど
金谷　ありがとうございました
山本　いえいえ、私は何も

上田と金谷、資料館の方へ去った。

歩　いいんですよね？追いかけなくても
山本　そうね、今日はもう・・・たくさんの時間がかかる。それこそ、５年、１０年
歩　すぐに結果はでないんですね
山本　え？
歩　大変ですね
山本　・・・
歩　ご苦労様です
山本　好きでやってることだから
歩　そう言えるってことが、すごいと思います
山本　どうして？
歩　山本さんのお仕事は
山本　何？

歩　人の役にたってるっていうか
山本　え？
歩　救われる人がたくさんいます。いると思います。あの
山本　歩ちゃんは今どこにいるの？
歩　え？
山本　どこから見てるの？どこに立ってるの？
歩　・・・・
山本　それは違うよ。救ったとか、役に立ったとか、何それ？
歩　えっと
山本　この仕事はね、ときどき簡単にやりがいが持てちゃうの。だから畏れないと
歩　畏れですか？
山本　手を抜くとか、そういうんじゃないんだけど
歩　はい
山本　だから、わきまえる
歩　わきまえる？
山本　あなたと私の関係に私は寄りかからない
歩　山本さんも寄りかかることがあるんですか？
山本　そう
歩　だから・・「自立」なんですか
山本　そういう言葉になるのかな
歩　あの
山本　何？
歩　やりたいです・・この仕事

歩、山本を見つめる。

山本　最後まで話さないと、ずるいかしらね
歩　え？

山本、ためらいながら、ゆっくり話し始める。

山本　私ね、学生のころ、特別養護老人ホームに勤めてたことがあった。住み込みで、お年寄りの食事の介助をしたり。お年寄りが亡くなると、ご遺体を霊安室に運ぶ仕事もやってたの。落ち込んだ、そのたびに。立ち上がれないほど。でもね、次の朝になると、何事もなかったように、まったく同じ老人ホームのプログラムが始まって。私は、その落差についていけなかった。次に病院に勤めたときは、重症の急患が運ばれてくるよね、職員は総動員で命を救うために奔走する。それはね、正直言って、気持ちのいい瞬間でもあったの。患者さんが亡くなって、廊下で家族が泣いている。そのすぐ裏側の控室で、私の感じていた一抹の充実感と高揚感はまさに「禁断の木の実」だった。今、起きている現実と、私のやりがいや手応えとの間にものすごい落差がある。だから私は、ここで

自分の糧を得てはいけないという感覚、とても怖い世界だという感覚を常に持とうと思ってる。自分は他人のために何かできるとか、どんな役割を果たしているとか、おこがましいと思う

歩　はい

山本　普通でいい

歩　普通ですか？

山本　お互いが普通に向き合って、そして、楽しくて、なんとなくお互いを必要として、特別に意図しないで助け合う。そういう関係が一番いいのかも

歩　・・・よくわかりません

山本　「アオバズクの里」はね、この１０年、いろんな人が亡くなりました。患者さんも、スタッフも、患者さんのご家族も。倒れていった人たちがたくさんいるという現実の積み重ね、その重みの中に今、私は在る。それだけ。それが、私の道しるべ

歩　・・・

山本　またしゃべりすぎた

山本、立つ。木を見て。

山本　私ね、エンゼルポーズはまだ見たことがないの

歩　エンゼルポーズですか

山本　アオバズクはね、初夏にやってくる。見たいわね？一緒に

歩　はい

山本　見てくるね

山本、資料館のほうへ。
歩は独り。いつかのあの日のように木を見つめる。それから、根に触れる。
文が立っている。

文　何してるの

歩　文

文　みんな、お姉ちゃんのこと探してるよ

歩　みんなって誰？

文　逃げてるよね？

歩　何？

文　逃げてる

歩　・・・・

文　逃げてもいいけど、無理だからね。お姉ちゃんはお姉ちゃんだからね

歩　・・・・

文　お姉ちゃんのマンションに行ってもいつもバイクがないから。あー、やっとバイクには乗れるようになったんだなあって思って、ちょっと嬉しかったし、でも、いつ行ってもいないし、ずっといないし、ＬＩＮＥも無視だし、既読もないし。でもね、全然、更

新してなかったけど、最近、お姉ちゃん、インスタに写真あげたでしょ？大きな木の写真。これ。それから毎日、木の写真ばっかり。あれ、探しにきてっていう意味だよね？かっこ悪いって。気付いてないかもしれないけど、それ、お姉ちゃんの承認欲求だからね

歩　何よそれ。承認欲求って

文　認めてほしいの。不特定多数でいいから。私は生きてマース。誰か気付いてーって

歩　・・・・

文　「いいね」「いいね」って、知らない人からたくさんもらって、それで、安心なんだ？簡単だよね。思い込みだからね、でも、それ、知らない人だよ、お姉ちゃんのことなんかホントはどうでもいいんだよ

歩　・・・・

文　言い返してよ

歩　思い込みって、わかってるから

文　え？

歩　山がある。森が見える。私があると思い込む。本当にそれが山なのか、本当に森があるのかわからない。でもね、それで良かったの。それで充分。あれを山にしましょうって。あれを森って決めましょうって。二人で決めて。全部、二人でそうやって決めて。でも、今はできない。どうやってもできない。だから

文　だから、何？

歩　ごめんね。心配かけて

文　私だってね

歩　うん

文　自分を高いところに棚上げして言ってるんだからね

歩　・・・・

文　五回目で会えたのは奇跡だから

歩　五回も来たの？

文　さっき、駐車場の赤いバイク見つけて、やったーって

文、周りを見渡して。

文　いいよね？ここ。パワースポット

歩　嘘だって

文　そんなことない

歩　木にそんな力はないって

文　お姉ちゃんのせいじゃないんだからね。もう何回も言ってきたけど

歩　それはもうわかる

文　時間がかかるんだよね

歩　え？

文　時間、かかるんだよね

歩　うん

文　お姉ちゃんにとってのパワースポットだったらそれでいいじゃん
歩　なによ
文　私はひとつ願いがかなったから
歩　何？

文、木の根を触る。

文　お姉ちゃんを見つけた

文、木を見上げて。

文　だから、もうひとつのお願いもきっと

溶暗。

6、ある日の夕方、曇りのち晴れ

上田と歩がいる。

上田　落書きの犯人が捕まりました
歩　誰だったんですか
上田　時々、国道で見かける暴走族の若者たちですねえ
歩　そうなんですか
上田　忍び込んで、落書きをしてくるというゲームをしていたらしいですね、駐在所で聞きました
歩　ゲーム？遊び半分ですか
上田　くだらないですねえ
歩　その若者たちは余裕がないんですよ
上田　そんなのは関係ありません。どうでもいいです。私はゆるせないですね、制裁を加えたいですねえ
歩　そうなんですか
上田　木に何かあったら最悪ですからねえ
歩　木が怒るんじゃないですか。罰を与えるとか
上田　木にそんな力はありません
歩　そうですかねえ
上田　木に悪戯したら、捕まえて木に吊し上げてやります。見せしめです
歩　木が傷みますね
上田　あーそうですね。何か別の方法を考えんといけませんねえ
歩　上田さん

上田　なんですか？
歩　しばらく来ません
上田　そうですか
歩　「里」には挨拶してきました。金谷さんにも
上田　そうですか
歩　ありがとうございました
上田　私は別に、何もしてないですよ
歩　それがいいんですよ
上田　え？
歩　私にはそれが良かったから
上田　あーそうなんですか。わからないですねえ
歩　また来ます
上田　はい
歩　また来ます
上田　はい
歩　最高のツーリングコースだから
上田　ええ
歩　夏には必ず
上田　やっぱりオートバイはいいですか？
歩　感覚が研ぎ澄まされます
上田　そういうもんですかねえ

歩、立ち上がる。

上田　行きますか

歩、空を見上げて。

歩　山の天気、ですね
上田　運転、大丈夫ですか？
歩　大丈夫です
上田　気をつけて
歩　雨が激しくなったら、また戻ってきます
上田　そうですね。それがいいです
歩　白井さんの口癖
上田　口癖？
歩　トゥービーコンティニューって、あれ、なんでですか？
上田　英語ですね
歩　英語です
上田　お父さんが大学の英文学の先生だったみたいで

歩　そうなんですか？
上田　もしかしたら、お父さんの口癖だったかもしれないですねえ、わからないですけど
歩　そうですか
上田　はい
歩　では、また

歩、去る。バイクの走り去る音。上田、ベンチに座る。
しばらくして、中西郁真がやってくる。立ち止まり、木を見上げる。

上田　今日は休みですか
郁真　ええ
上田　珍しくはありませんねえ
郁真　え？
上田　こんな日に・・ひとりで

郁真、木を見つめる。白井がやってくる。木の前で立ち止まり、木を見つめる。
雲の切れ間から一筋の光。少しだけ大樹は輝いた。

終わり

［引用・参考文献］
・「田舎のパン屋が見つけた腐る経済」渡邉格(講談社)
・「日本の犬猫は幸せか　動物保護施設アークの２５年」エリザベス・オリバー(集英社新書)
・「犬を殺すのは誰か　ペット流通の闇」太田匡彦(朝日文庫)
・「治りませんように　べてるの家のいま」斉藤道雄(みすず書房)
・「降りていく生き方」横川和夫(太郎次郎社)
・「べてるの家の当事者研究」浦河べてるの家(医学書院)
・「べてるの家の非援助論」浦河べてるの家(医学書院)